

令和7年度一般選抜（A日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしています。小論文試験は、このうち主に「思考力、判断力、表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としています。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験にて提示される問題文の出典は OECD Employment Outlook 2023: Artificial Intelligence and the Labour Market の第3章であり、AIの進歩が人間の労働と雇用に及ぼす影響について、置換効果(displacement effect)、生産性効果(productivity effect)、再雇用効果(reinstatement effect)という3つの観点から論じた文章である。AI導入による雇用の喪失の懸念という一般的な認識についてこれら3つの効果をもとに考察を行い、人間の雇用(労働需要)の増減は、それぞれの効果の大きさによって決まると論じられている。

（意図）

問1では、AI導入が雇用に与える影響が不明確である理由を、本文に記述された「3つの効果」（置換効果、生産性効果、再雇用効果）に基づいて説明できているか、本文の内容理解の程度に応じて評価する。

問2については、本文の理解に基づき、簡単な数学的運用能力を問う問題である。特に、比率を用いた具体的な数値計算能力と、変化分を求めるという経済学で頻繁に用いる基礎的数学能力を評価する。

(1) 置換効果によって $1000 \times 0.2 = 200$ 人の労働者が解雇されたので、導入後の生産ラインに従事する労働者数は 800 人である。解雇された労働者のうち $200 \times 0.1 = 20$ 人が AI 保守点検作業のために再雇用された。結果として AI 導入後の総労働者数は $800 + 20 = 820$ 人となる。解答欄に 820 を記入し、余白に以上の計算過程が記されていることをチェックする。

(2) AI 導入前は 5 万台/年である。労働者一人・年当たり自動車の生産性は 5 万

/1000=50 台である。AI 導入により残った 800 人の生産ラインに従事する労働者の生産性は 30%増えるので、労働者一人・年当たり自動車の生産性は $50 \times 1.3 = 65$ 台となる。よって、工場全体で 1 年間に $800 \times 65 = 52000$ 台生産することになるので、年間で 2000 台増産される。解答欄に 2000 を記入し、余白に以上の計算過程が記されていることをチェックする。

問 3 については、問 1 でも問うた AI が既存の労働に及ぼし得る 3 つの効果の理解と、それぞれの効果が労働需要に及ぼす影響についての論理展開の理解について、地域交通及び関連サービスへの AI 導入という具体的な文脈のもとで、自身の考えを論じる問題である。その際、3 つの効果が既存の地域交通及び関連サービスの業務にこういった形で現れ、それらが地域の労働需要にどのような影響を与えるかを、本文の内容に加えて 3 つの出題者注を元に論理的に記述できているか、その程度をチェックする。

(参考)

問 1 解答例

AI 導入による雇用の影響が明確でない理由は、3 つの効果が同時に存在し得るためである。まず、置換効果では、AI が人間の仕事を置き換えることで一部の職が失われる可能性がある。次に、生産性効果により、AI が業務を効率化することで、他の分野での労働需要が増加することが期待される。さらに、再雇用効果では、新たな AI 関連の職務が生まれ、雇用が増加する可能性がある。これらの効果が複合的に作用するため、AI が雇用に与える影響は一概に予測できないのである。(216 字)

問 3 解答例

地方都市や過疎地域において、AI による自動運転技術がバス運行に導入されると、まず置換効果として運転手が AI に置き換えられ、運転業務の労働需要が減少する可能性がある。一方、生産性効果として、AI 導入によるコスト削減が運賃の低下や運行頻度の増加をもたらし、バス利用者が増加することが予想される。利用者の増加に伴い、観光業や商業施設など他の関連サービスへの需要が増大し、地域経済の活性化につながるであろう。また、AI 導入によりバス運行のコストが削減され、過疎地域でも持続的な運行が可能になる可能性が高い。さらに、再雇用効果として、AI システムの開発・保守や AI アプリケーションを扱う業務が新たに生まれ、元の運転手や技術者も雇用されることが期待される。このように、AI 導入はバス運行の効率化と地域全体の雇用に好影響を与えと考えられる。(357 字)